

山の百花

遠足員 半田 隼

【59】ダイモンジソウ

8月もお盆を過ぎると、知床はすっかり秋の気配です。カラフトマスが川を遡上してくる様子が見られます。昨年は羅臼岳に登りましたので、今年は斜里岳に挑戦しました。麓の清里町に前泊し、4時に起きて登山口に向かいました。美しい朝焼けに見とれていると「これでは今日は雨になりますね」と地元の方が言うのです。その言葉通り、登り始めてまもなく、雨が降り出してきました。

斜里岳は羅臼岳に比べて高低差も少なく、山頂までのアプローチも短いのですが、とても変化に富んだ山で、特に沢登りが好きな方にはお勧めです。歩き始めから分岐までの間に、十七回もの渡渉があります。今回は雨でしたので、安全を考えて、尾根ルート（新道）を往復することにしました。

この時期の山は少し寂しく、特別珍しい花も咲いていません。それでも、岩の上にダイモンジソウが沢山咲いていました。山で見たのは初めてです。ご存知のように、5枚の花弁のうち、下の2枚が少し長く、「大」とい

う字に似ています。知床だからなのか、丈も低く、雨に打たれて寒さに震えているように見えた。「大」という文字が滲んで見えました。斜里岳の山頂は、雨音が強く、とても長くは立っていられません。写真を撮ると、急いで今来た道を引き返しました。天気だけでは、どうにも仕方がありません。



【60】サワギキョウ

自他とも認める「雨女」ですが、今年の山行は本当に雨に降られました。何年かぶりの尾瀬ヶ原・尾瀬縦走も、一日中、冷たい雨が降っていました。鳩待峠で雨具を着込み、途中からは傘をさして歩きました。ちようど尾瀬ヶ原はヒツジグサの時期で、

池糖のあちこちに可愛らしい白い花が咲いていました。

平素は混雑している尾瀬も、夏の終わりにはとても空いています。原の小屋では6畳間の個室をもらいました。シャンプーや石鹸こそ使えませんが、お風呂にも入れます。トイレは水洗で、しかもウォッシュレットです。清潔な畳の緑には、尾瀬らしく水芭蕉の花がデザインしてありました。

初めて尾瀬を訪れたのは学生時代で、夜行で沼田駅まで行き、三平峠を目指しました。五十年も昔の話です。駅で何足か草鞋を買いました。木道もまだ途中までしか無く、ズボンの裾をたくし上げ、沼の中をズブズブと歩いたものです。ニッコキスゲの季節だったでしょうか。

サワギキョウの尾瀬は、今回が初めてです。青紫の花が一面に咲き、雨に煙る尾瀬ヶ原を明るく染めていました。サワギキョウは、山野の湿地に生える多年草です。艶やかな色の花です。植物図鑑によると、花は有毒だとか。

きつと熊も食べないのでしよう。ベニバナサワギキョウと言う種類もあるそうです。